

いよいよ、政治決戦の年、県議選、市議選勝利へむつ下北ブロック選対結成！

2月16日（土）、下北文化会館において社民党と平和労組会議の合同ブロック選対を結成しました。平和労組からは赤平県事務局長、上十三下北地本の立崎議長、東事務局長が参加しました。

会議では2019年は統一地方選を皮切りに秋のむつ市議選まで連続して戦いが続くこと、国政レベルでは憲法改悪を阻止できるか、そして社民党の存亡が問われるなど非常に重要な年であることを全体で確認しました。その結果、今回結成される選対会議については年間を通しての存続をさせていくこととしました。

そして、当面の最大の課題である4月の県議選むつ市区と10月に予定されるむつ市議選について具体的な活動方針を確立しました。県議選では杉浦弘樹予定候補（無所属）、むつ市議選では日土潤予定候補（党公認）の勝利へ全力で立ち向かうことを確認しました。

会合へは党常任幹事会メンバーの他、平和労組系各組織と傘下の退職者会など25名ほどが参加しました。



ブロック選対で推薦が決まり、挨拶する杉浦氏

《青森県議選日程》

3月29日（金）告示 4月7日（日）投票



profile

1979年生まれ 39歳
妻・子供3人
脇野沢中学校
大湊高等学校
青森大学社会学部
元参議院議員 秘書
参議院議員 田名部匡代 秘書
役職 県民宿連合会副会長

3つの政策提言

1. 地域医療

安心して信頼される地域医療を目指し、政策提言をします。

2. 学校教育・子育て

次世代を担う、子供達の環境を充実するため、政策提言をします。

3. 地域経済活性化

全世代へ対応した雇用環境の充実、人材育成の環境充実へ向け、政策提言をします。

社民党青森県連
県議選公認・推薦予定候補
【公認】齊 藤 憲 雄
(青森市選挙区)
【推薦】杉 浦 弘 樹
(むつ市区/無所属)
【推薦】木 明 和 人
(上北郡区/無所属)
【推薦】今 博
(五所原市区/国民)



社民党青森県連合幹事長
斎藤のりお

中間貯蔵「21年度に」

RFS操業延期 県・むつ市に報告

むつ市に使用済み核燃料中間貯蔵施設を建設しているリサイクル燃料貯蔵（RFS）は21日、2018年後半としていた操業開始時期を21年度に延期すると県とむつ市に報告した。原子力規制委員会による新規制基準への適合性審査にかかる時間が、見込みを大幅に超えているためとしている。操業開始時期の延期は7回目となる。

新基準の適合性審査長引く

この日、県庁を訪れたRFSの坂本副社長は佐々木郁夫副知事に「これまでも開始時期の見直しを繰り返して、県民の信頼を損なっている」と述べた。適合性審査の合格後も操業開始までに、安全対策工事の設計や工事方法の認可（設計認可）や使用済み核燃料の貯蔵と貯蔵経路など多くの段階を経る必要がある。審査長期化でこれらの期間を見通すことが「非常に難しい状況」と説明した。

このため「まずは設計認可の審査終了を19年度下期として全力で取り組む」としながら、国に届け出る操業開始時期を約3年の延期となる21年度と見込んだ。詳しい操業開始時期は設計認可の認可をまえて決めるという。

この説明に佐々木副知事は「安全対策に一層の責任と使命感をもって取り組み、県民や自治体の理解が得られるよう最大限の努力を」と求めた。



RFSの中間貯蔵施設は11月26日、むつ市、朝日新聞社機から、恵原弘太郎撮影

一方、出張先の青森市で坂本社長から説明を受けたむつ市の宮下孝一郎市長は、度重なる開始時期の見直しについて「誰も責任を取っていない」と批判。核燃料サイクル政策を進めてきた国やRFS、県に「責任について考えて欲しい」とした。そのうえで21年度の操業開始時期が確実なものでなければ延期の申し入れは受け入れられないと答えた。

対して坂本社長は「市長の期待を裏切り、地域住民の信頼を損なった。とにかく設計認可の審査を終え、その上で市長に確実な（操業開始）時期を報告したい」と報道陣に答えた。中間貯蔵施設は、10年8月に着工。14年1月に新規制基準への適合性審査を申請し、これまで19回の審査会合や100回以上のヒアリング審査を重ねている。（林義則、伊東治）

東通原発工事再開 村長ら東電に要望

社長と面会

東通村の越善靖夫村長は13日、東京都千代田区の東京電力ホールディングス（HD）本社を訪れ、小早川智明社長と面会し、東通原発1号機の早期工事再開などを要望した。要望には丹内俊範議長ら議員13人が同行した。

越善村長は「東通原発は



日本のエネルギー政策、原子力政策に対して大きな役割

東京電力の小早川社長④に要望書を手渡す越善村長。左は丹内議長⑤13日、東京電力HD本社

割を担う。立地地域の状況を重く受け止め、責任ある対応を強く要望する」とし、①早期の工事再開②原発の安全確保と信頼回復③など4項目を示した。小早川社長は「進捗は

（白取心平）

2019. 2. 14 東奥日報（右左とも）

大間原発工事「早期再開を」

町長ら国に要望

大間町の金澤満春町長と全町議10人らが13日、大間原発を建設している電源開発（Jパワー）本店と経済産業省を訪れ、建設工事の早期再開などを要望した。経産省では①エネルギー

面会した。また、電源開発では浦島彰人副社長に要望書を手渡した。

金澤町長は「経産省では、国策に協力してくれた地域のことを重く受け止め、期待に沿えるよう力を尽くしたいとの言葉をいただいた。電源開発も共存共栄を進めていくとのことだった」と話した。

政策・原子力政策の推進②大間原発の早期工事再開を要望。電源開発に対しては、運転開始目標時期の延期による地域経済への影響緩和を求めた。

金澤町長によると、経産省への要望には江渡聡徳衆院議員と津島淳衆院議員が同行し、磯崎仁彦副大臣と

（加藤彩美）

RFS中間貯蔵：安全審査 容器の密封性重視

「建屋」から論点変更

原子力規制委員会は6日の定例会で、リサイクル燃料貯蔵（RFS）が運営する使用済み核燃料中間貯蔵施設（むつ市）の安全審査に、審査会合での論点の変更を決めた。現在、貯蔵建屋に対する津波の影響を巡ってRFS側との議論が続くが、規制委は建屋内で使用済み核燃料を保管する金属製容器（キャスク）の密封性を重視。建屋が損

S側が仮定する津波の圧力を「妥当」と立証することは「困難」と指摘。建屋が壊れた場合に安全機能をどう維持するか、などに論点を切り替える方針を示した。

各委員は規制庁の方針を了承。更田豊志委員長は「建屋が崩れても密封機能は維持されるという、本質の議論をしてもらいたい」というのが事務局の求めだ」と理解を示した。

RFSの広報担当者は「（定例会の）議論を踏まえて社内でも十分検討し、今後の審査に対応したい」と話した。RFSは1月、規制庁に提出した書類で事業開始の時期をこれまでの「2018年後半」から「21年度」に修正している。

（佐々木大輔、工藤洋平）

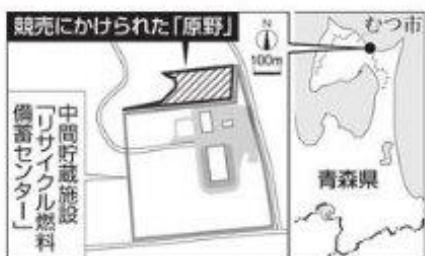
2019. 2. 7 東奥日報

今回もあんまり活動ネタがなく、新聞記事で紙面を埋めてしまいました。他には「むつ病院医師拡充」の記事もあったんですが…

大間の3億円超えマグロも凄いが、こちらはもっと凄い！

青森の原野 相次ぐ高額入札

核燃料貯蔵施設の隣 4度落札も未売却



■原野の競売経過と関電の動向

15年11月	関電が20年ごろに中間貯蔵施設の建設場所を決めると発表
17年6月	1回目の競売で15億円落札
11月	2回目の競売で5億100万円落札 関電社長、18年内に候補地示すと表明
18年5月	3回目の競売で6億1千万円落札
10月	4回目の競売で2億4千万円落札
12月	関電社長、候補地示せず陳謝

土地は下北半島にあり、海岸まで約200メートルの平地にある。不動産登記簿などによると、東京都内の会社による。地目は原野。接する道路はない。

青森地裁は債権者からの申し立てを受け、2016年8月に競売開始を決めた。2回目（17年11月）は6者の参加で5億100万円、3回目（18年5月）は4者が参加し、徳島県の会社が6億1千万円で落とした。いずれも期限内に落札額が払われなかったとみられ、売却に至らなかった。

昨年10月の4回目の入札には3者が参加し、岩手県の個人が2億4千万円で落札した。落札者に近い関係者には「高く転売できるのでは」という恩恵から、宝くじのような感覚で皆が競売に参加している」と明かす。

実は、この土地の隣には原子力発電所の使用済み核燃料を最長50年間保管する中間貯蔵施設・リサイクル燃料備蓄センターがある。東京電力ホールディングスと日本原子力発電が出資するリサイクル燃料貯蔵（RFS）が10年に着工し、完成後は2社の使用済み核燃料が運び込まれる予定だ。電気事業連合会によると、全国17原発が抱える使用済み核燃料のウラン重量は昨年9月末時点で1万5260トン。一方、各原発の核燃料プールなどで保管できる容量は2万8900トンで、73%が埋まっている。関西電力は福井県の高浜原発と大飯原発のプールが10年以内に満杯になると見込んでいるが、新たな保管場所を確保できていない。

そこで有力視されているのが、むつ市のRFSの施設を東電などと共同利用する案だ。地元の不動態に詳しい関係者は「道路に面しておらず、水道もない。中間貯蔵施設の用地買い増しへの期待感から高値がついている」と解説する。競売に関わる債権者は「いずれは電力側が買うことになるだろう」と見込む。

ただ、関電の岩根茂樹社長は17年、福井県の西川一誠知事と面会して18年内に県外の候補地を示すと約束したが、昨年12月までに示せずに陳謝している。むつ市の宮下宗一郎市長は、関電がむつ市を候補地と示すことに「許されない」と反発しており、先行きは不透明だ。4回目の入札でも落札額は納められなかったとみられ、評価額と同額の保証金7億15万4千円は裁判所に没収されたとみられる。用地買収が決まるまで売却を阻もうとする競売妨害を疑う声もあるが、落札者の関係者は「競売を妨害する意図はない」と否定する。

関電広報室は取材に対し、「入札があったこと自体知らず、お答えする立場にもない」と回答した。

（五十嵐聖士郎）

評価75万円に15億円

津軽海峡を望む青森県むつ市の4万平方メートルの土地をめぐり、青森地裁で高額入札の競売が繰り返されている。評価額は715万円に過ぎないが、15億円の値がついたこともある。背景を探ると、使用済み核燃料の中間貯蔵施設にからむ思惑が見えてきた。



中央奥に見える工作物が立つ土地が、競売にかけられた「原野」。手前は隣接するリサイクル燃料貯蔵の敷地＝2018年6月、青森県むつ市、五十嵐聖士郎撮影

今年一月二四日付の朝日新聞全国版記事です。使用済み核燃料むつ中間貯蔵施設に隣接する原野の話です。報道によると4回も落札されているにも関わらず、代金未納のため成約に至っていないとのこと。いたずら半分に落札したと思いきや、こうした場合は事前に納めている「保証金（一般的には基準価格の2割）」が没収となります。すなわちこのケースでは一回の競売に付き約1千5百万円です。いたずら半分とは決して思われません。国や電力業界の動向を見極めながら不動産ブローカーが暗躍しているのと思われませんか。今や私達のふるさと、下北半島はこうした状況にあります。

☆すぎうら ひろき 総決起集会☆

●とき 2019年3月24日（日）午後3時
●ところ むつ来さまい館 イベントホール

多くの皆様のご参加をお願いします

杉浦事務所 むつ市並川町6番35号 ☎0175 (33) 4680

むつ川内バイパス大平中学校入り口交差点付近



大竹進氏を迎えて各団体より 2019 年の決意を表明！

2月2日、むつまさかりプラザで「青森県を変えよう！大竹さんと進む私達の会むつ下北支部」（野坂庸子代表）主催で『2019年 今こそ示そう！私たちの決意』と銘打って討論集会在40名の参加で開催されました。

大竹さんの基調講演ではアベ政権の危うさ、とりわけ憲法改悪についていかに対応すべきかが力説され、今ほど全野党が共同で闘うことの重要性が示されました。また、大竹さんが今春にもオープンさせる佐井診療所の現状なども話されました。

党からは日土代表代行が参加し、選挙イヤーに向けて野党共闘の要として取り組む決意を述べました。また、共産党、国民民主党、立憲民主党からもそれぞれアベ一強体制打倒の決意が述べられました。他に下北地域9条の会木下共同代表など計13団体から今年最も力を注ぎたい取り組みが示されました。会場の時間の関係で十分な討論とまでは行きませんでした。初めて参加した団体もいくつかあり盛会裡に終了しました。

終了後の懇親会には目時代表も駆けつけ挨拶をしました。また、杉浦県議選予定候補も駆けつけ、護憲を訴える挨拶がありました。

当日の次第です



講演する大竹さん↓

↑開会の挨拶をする野坂代表



今春オープン予定の佐井診療所と大竹氏



集会の様子が参加者よりフェイスブックに掲載されました。

響き合う野党共闘—下北で講演と語る会

むつ市で2日、市民連合あおもりの大竹進共同代表の講演と今年の決意を語る集会が開かれ、多数参加しました。集会名称は「2019年 今年こそ示そう！私たちの決意—大竹さんと語ろう！私たちの未来、ふるさと」。大竹代表は、「安倍政権を打倒しよう—2019年選挙イヤー」と題して、参議院選挙の最大の争点となる憲法改定と消費税をテーマに、安倍政権の野望を許さないキーワードと展望、「市民と野党の共闘」で政治を変える市民連合の紹介や役割を話しました。参加者から12人が発言。「核燃問題は以前より理解され易くなっている。県知事選も聞きたい、その力を参議院選挙へ」とか、「大間原発が動けば漁師は3億5千万円のマグロはないことを知りはじめています」、「9条署名は個別訪問で強める。野党は団結してほしい」、「若い世代に平和を残したい。アベ政治を終わらせたい」など意気高く決意を表明。また、2月23日に開く市民連合あもり主催の「市民と野党の共闘フォーラムの成功を期待したい」と述べる人もいました。政党の地域組織も決意表明。共産党、社民党、国民民主党、立憲民主党の代表は、「参院選は憲法、消費税、辺野古、原発の課題を重視してたたかう」「安倍を倒す野党結集の接着剤になる」「自民党の県議独占を打破したい。野党共闘で勝利を」「市民連合と野党の共闘なくアベ政治は倒せない。市民連合の運動を広げてほしい」などと呼応し、響き合う集会となりました。

2019年 今こそ示そう！私たちの決意 大竹さんと語ろう！私たちの未来、ふるさと

「嘘つきは戦争の始まり。」右の絵は今年1月7日の朝日新聞2面すべてを使った『宝島社』（出版社）の恒例の新年企業広告です。国内外で大きな反響を呼びました。まさに今日の政治状況を的確に捉えたフレーズでした。
モリカケ問題から労働統計偽造など、もはやこうした国民を愚弄し続ける政治に私たちは力をひとつにして立ち向かわなければなりません。
「政治とはこんなもの」とあらかじめは何も変わりません。



【開会あいさつ】

○「青森県を変えよう！大竹さんと進む私達の会」むつ下北支部……………代表 野坂 庸子

《おはなし》みんなの力をひとつに！

市民連合あもり共同代表 大竹 進

【今年の決意】

- 原発・核燃をなくす下北の会……………代表 棚 部 孝 行
- 大間原発に反対する会……………事務局 奥 本 征 雄
- 日本共産党下北地区委員会……………市議会議員 横 垣 成 年
- 社会民主党下北総支部……………代表代行 日 土 満
- 国民民主党むつ下北支部……………幹事長 山 本 信 悦
- 立憲民主党青森県連……………幹事長代理 籠 登 勝 彦
- 下北地域九条の会……………共同代表 木 下 千 代 治
- 新日本婦人の会むつ支部……………事務局 吉 田 真 佐 子
- むつ生活と健康を守る会……………会長 菊 池 嘉 任
- 下北地区母親連絡会……………会長 高 屋 敷 八 千 代
- 本州最北くらし活性化の会……………代表 対 馬 文 郷
- たんぼぼ通信……………主宰 長 久 保 克 朗

【おわりに】

○核の中間貯蔵はいらない！下北の会……………事務局 佐々木 まき子



こちらは同じ宝島社が同日に読売新聞や日刊ゲンダイに掲載した広告です。（同じく全2面使用）

「青森県を変えよう！大竹さんと進む私達の会」むつ下北支部は4年前の県知事選に立候補した大竹さんを支援する政治団体として結成されました。選挙終了後も原発問題などを取り上げながら映画会や講演会などを取組んできました。今後は皆さんのご意見を伺いながら次の段階へステップアップしていきたいと考えています。

